

会 議 録 (案)

会 議 の 名 称	平成 2 1 年度 第 4 回 豊中市立図書館評価検討委員会		
開 催 日 時	平成 2 1 年 (2 0 0 9 年) 6 月 1 1 日 (木) 1 8 時 ~ 1 9 時 3 0 分		
開 催 場 所	豊中市立岡町図書館 集会室	公 開 の 可 否	☒ 可 不可・一部不可
事 務 局	生涯学習推進室 岡町図書館	傍 聴 者 数	2 人
公開しなかつた理由			
出席者	委 員	村上泰子 上口佐知子 本荘泰司 小早川謙一	
	事 務 局	岡町図書館長 千里図書館長 野畑図書館長 庄内図書館長 蛭池図書館長 岡町図書館副主幹	
	そ の 他		
議 題	1 豊中市立図書館評価のまとめについて 2 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成21年度（2009年度）第4回 図書館評価検討委員会

日 時：平成21年（2009年）6月11日（木） 18時～19時30分

場 所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委 員 村上（委員長） 上口 本荘 小早川

事務局 古川 藤沢 林 大原 北風 松井

1 豊中市立図書館評価の実施について

「資料9 豊中市立図書館評価システムリーディング項目一覧（見直し）」

「資料10 豊中市立図書館評価システムリーディング項目一覧表（見直し）」

「資料11 リーディング項目以外からの評価（第3回委員会のご意見から）」

＊これらの資料に基づき事務局から説明を行なった。

●委員長

再度、今回の委員会で変更になった点を確認していきたい。

資料10をご覧ください。

大項目としては、「経営・運営・管理状況に関する評価」と「図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」となる。

まず、大項目「経営・運営・管理状況に関する評価」の中項目「図書館として適切な経営が行われているか。」である。

小項目「人材育成による職員の能力・資質向上」に指標として、「職員研修の達成度」を加えた。これは、職員（参加者）の自己点検にはなるが、後々の市民サービスに繋がっていくということで採用している。

小項目「図書館の数、配置の適切さ」では図書館費を見ていったが、数字では判断できない部分については、「グラフ（豊中市立図書館町別貸出冊数/町別60歳以上人口分布/庄内図書館利用者年齢層グラフ/幸町図書館利用者年齢層グラフ/高川図書館利用者年齢層グラフ）、庄内幸町図書館の概要、庄内幸町図書館のあり方検討案及び経費等比較表」を見ながら、評価を行なった。

次に、中項目「市民にとって質の高いサービスが提供されているか」の小項目「祝日開館・開館時間」であるが、このあたりは図書館利用者アンケート調査結果にも住民満足度が現れているところである。ただ、住民ニーズと図書館の現状をすり合わせて考えていく必要がある。

小項目「蔵書状況」については、指標「蔵書冊数」を「図書資料」「視聴覚資料」と内訳が分かるように見直した。また、この小項目に「資料亡失対策（資料亡失数）」を中項目「その他運営の健全化への対応は図れているか」から移動した。

次に、中項目「市民参画による運営が図られているか」については、各小項目に市民にどれだけ関心を持たれているか（知られているか）を知るための指標として、指標「資料公開（HP）のアクセス件数」をそれぞれ加えた。

小項目「市民・ボランティア等の協働」は、中項目「市民との協働事業を推進しているか」と整理を行った。

次に、中項目「図書館の情報発信・PRは十分になされているか」については、小項目「市民への図書館サービスのPR」を中項目「ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか」と整理を行い、指標をホームページの「更新頻度」とした。

小項目「サービスの認知度」は、今回、新たに加えられたものである。

大項目「経営・運営・管理状況に関する評価」には、「豊中市立図書館評価システム」評価表には様々な項目があがっていたが、リーディング項目に総括される等の判断を行なったものとみなしている。

次に、大項目「図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」の変更点を確認していきたい。この大項目については、図書館利用者アンケート調査の満足度に関する指標を、関連する小項目に加えた。

中項目「市民が求める資料や情報を収集し、迅速・的確に提供できているか」の小項目「カウンターサービス」に指標「職員対応の満足度」を加えたが、この「職員対応の満足度」が必ずしも「カウンターサービス」のみの満足度を表しているのではないことを、注意しなければならない。

次に、中項目「他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか」であるが、現在、行なわれているものを指標としてあげている。

次に、中項目「市内の公共施設との連携・協力を推進し、市民の多様な情報ニーズに答えているか」の小項目は4つに分かれている。先ほど、事務局から説明があったように小項目「公民館・人権まちづくりセンター・教育センター・地域教育振興課との連携」の見直しは見送るものとする。

次に、中項目「ITを活用した図書館サービスの向上を図るとともに市民の情報活用を支援しているか」の小項目「ビジネス支援サービス」は用語の取扱の問題はあるが、現段階では現状に合わせてこのように設定する。

次に、中項目「子どもの読書活動を推進しているか」「学校・学校図書館への支援と連携を推進しているか」については、変更点はない。

次に、中項目「高齢者、障害者および外国人の読書環境づくりをすすめているか」の読書環境づくりは、大項目「経営・運営・管理状況に関する評価」に分類できるものとも考えられるが、現状を考慮しこの中項目とする。

次に、中項目「地域の情報センターとして積極的に活動しているか」の小項目「地域資料・情報の収集・保存・提供」の指標「図書所蔵冊数」については、館内での利用状況を測るものである。この指標「図書所蔵冊数」以外に他に利用状況を測る指標がないかとの意見はあったが、指標の設定は困難である。

次に、中項目「市民との協働事業を推進しているか」については、中項目「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか」から小項目「各種団体、地域の活動団体・グループとの共催・協力事業」を移動した。

最後に、中項目「市民団体・ボランティアの学習と活動を支援しているか」については、

変更点はない。

●委員長

改めて全体をご覧いただき、ご意見をお願いしたい。

資料 9 には目標値が設定されているが、この目標値については現時点で適切かどうかを判断するのは難しいと思われるので、運営状況を見ていただきながら、次回の平成 23 年度の評価検討委員会で評価を行なうものとする。

項目自体について、ご意見を願います。

●委員

項目数がかなりのボリュームとなっているが、評価のための数字の収集等、どれくらいの業務量になるか。

●事務局

日ごろ統計を取っているものもあるが、ある程度の業務量にはなると考えている。

●委員長

資料 10 の項目番号の欄に青色と緑色でマークされたものについては、既にある統計データである。黄色でマークされた項目が増えると大変かもしれない。

●委員

ある程度の絞込みは必要であると思う。資料 10 において、黄色でマークされた項目を見直し、必要最小限のものとしてはどうか。民間企業の観点では、早いタイミングで見直していくことが大切である。

●委員長

公共施設の場合、サービスのバランスを取ることが難しいと思われる。

黄色のマークに該当する指標を削除することについて、事務局はどう考えるのか。

●事務局

当初と比較し、黄色のマークに該当する指標は減っていると思う。現時点で、各事業を代表する指標になっている。このままで実施したい。ただ、メリハリをつけて、スピード感を持って取り組んで行きたい。

●委員

各項目と実際の取組が整理できたと思う。ただし、項目数が多いのでこれらの項目をメンテナンスしていく際に、新たに指標設定又はブラッシュアップを行い、スピーディーに楽になるように取組んでいただきたい。

●委員

項目はたくさんあると思うが、図書館の機能を表しているためであると思う。

まずは、市民にご覧いただいて実施する中で整理してもらい、職員間の情報共有を行なったうえで、新しい項目の追加や削除を行なっていただけると良いと思う。

このリーディング項目は公表するのか。

●事務局

外部評価の成果として、公表していく。

●委員長

各項目の一つひとつを単独で見えていくのではなく、全体を見て評価をしていただきたい。貸出冊数が減ったとしても、他のサービスが充実していけばよい。全体を見ないと評価を見誤ってしまうかもしれない。

このように現状を把握することが図書館の現状を移す鏡となる。また、リーディング項目も実際の業務の中で、進化し発展していただければと思う。

これで、リーディング項目を確定とさせていただく。

異議なし

●委員長

リーディング項目以外の部分として、ご意見を願います。

今までの委員会でお配りしている図書館利用者アンケート調査結果等の資料をご覧いただき、また資料に縛られず意見を願います。

●委員

資料11の一つ目「図書館を利用したことがない人への啓発・PR」には限界があると思う。色々な機会を活用し、PRを行なっていくしか方法はないような気がする。元々図書館を利用される気がない方には難しい。

三つ目の図書館の地域性もなかなか大変なことである。図書館は、元々、自分の勉強をするため、本を借りるための場所であったように思う。しかし、図書館ができた当時とは社会環境も変化してきており、図書館を利用しなくても本を読める環境（インターネット）や大規模の本のリサイクルショップの出現により、本を安価で手に入れる環境となっている。

●委員長

地域ニーズは難しいものがある。しかし、実際に地域ニーズを掘り起こしてみても、初めて地域ニーズが出てくるものもある。社会の変化に合わせて、図書館がどのように地域にとって役に立つことができるか、考えなければならない。利用者にとって、図書館が信頼され、信頼できる情報を提供するサービスを有する施設であると認識されなければならない。

い。地域にあったサービスを作り出していくことも重要である。

●事務局

今回、南部地域の図書館の分析を通じて、見えてなかったことが見えてきたと思う。図書館を利用される人にとって、より利用できる中身に見直していきたい。

今回の評価を通じて、地域ニーズにどのように応えていくか、その第一歩が見えた。

●委員

評価で数字として現れていない部分も、きちんと情報発信していただきたい。数字だけで判断されてしまうと、サービスに偏りができてしまう。

●委員長

数字だけを見てしまうと偏ったイメージになってしまう恐れがあるので、図書館は様々な取組を上手く広報していただきたい。

●委員

資料 1 1 の二つ目「図書館の施設・整備」であるが、様々なサービスを提供していくこともよいが、機能の絞り込みも必要であり、一つの方法である。

●委員長

図書館機能の絞込は、サービスに偏りが出してしまうので、慎重に考えないといけない。

●委員

単一の機能に絞り込むという意味ではなく、地域性・場所での図書館の特徴出しを行なうという意味である。

●委員

図書館は今後、本の貸出冊数を増やしていくことにも取組んでいくと思うが、一方で人口の減少、財政規模の縮小等の資源の限界が出てくる。

この指標の中で、他機関や市民との連携を設定されていると思うが、図書館で足りない部分をボランティア団体と協力し、補完していくための仕組み作りは益々大切である。

●事務局

資料 1 1 の一つ目「図書館を利用したことがない人への啓発・PR」であるが、図書に関心のない人に興味を向かせることは難しいと思う。そのような人たちに働きかけていくためには、庁内の部署との連携や、いろいろな団体、図書館のボランティアに関っている人を通じて広げていくのも大切である。

●委員長

様々な機関や団体と連携をする中で、図書館の見える部分を増やしていくことは大切である。

●委員

インターネットが普及している中で、グーグルが図書の閲覧サービスを行なっている動きがある。本を読むだけであれば、自宅でインターネットにつながれば読める環境になってきている。図書館に図書を貸出す以外に新たな機能も必要であると思う。

また、行政の大きな課題であるコストについても、考えていかなければならない。

●委員長

これからの図書館の取組は大変であると思う。本がデジタル化されているという状況もある。リーディング項目も確定されたものではなく、時代の変化とともにどんどん変わっていくことになる。

リーディング項目以外の評価も確定したい。

リーディング項目以外の評価もリーディング項目と合わせて、図書館全体の評価とする。

平成21年6月22日（月）に図書館協議会を開催し、今回の評価結果を報告する予定である。

早急に評価結果を事務局にまとめていただき、委員の皆さんにご確認いただきたいと思う。最後に、傍聴者の方からご意見はあるか。

●傍聴者

評価の指標として、市内の公共施設との連携・協力があることは大切である。また、今後は図書館の司書としての特性も活かしていただきたい。

閉 会

●委員長

それでは以上で今年度の評価検討委員会を閉会する。